



今月の話題

- 第6回科学技術における連成問題に関する国際会議
- 中南米地震工学研修 関西方面研修旅行レポート
- コロキウム、ジェネラルミーティング&親善パーティー

研修 データベース

IISEENET(地震防災技術情報ネット)

IISEE-UNESCO レクチャーノート

Eラーニング

シノプシス・データベース(修士論文概要)

Bulletin データベース

第6回科学技術における連成問題に関する国際会議

(<http://congress.cimne.com/coupled2015/frontal/default.asp>)

国際地震工学センター 上席研究員 犬飼 瑞郎

第6回科学技術における連成問題に関する国際会議に、2015年5月18~20日に参加しました。

本会議は、解析関連の会議等の共同開催という役割を持ち、2年に1度の頻度で開催される計算技術分野の国際会議で、今回は、イタリア共和国ベニス市サン・セルヴォロ島の会議場(Conference Center, San Servolo Island, Venice City)で開催されました。



写真1: 開会式(サン・セルヴォロ島の会議場、大会議室)

本会議では、欧米、アジア、南米等の国々から、380件の論文またはアブストラクトが発表されました。会議開始時に、大会議室において、開会式(写真1)が行われ、各種セッションで口頭発表が行われました。

出張者は、2日目午後のセッション「階層構造間の相互作用に関する解析及び力学上の連成問題」において、「多質点解析における卓越周期と地盤・建築物間の動的相互作用」を発表しました。

会議プログラムが公表され

(<http://congress.cimne.com/coupled2015/frontal/ProgIntro.asp>)、

そのリンク先にアブストラクトや、論文集が公表されています

(http://congress.cimne.com/coupled2015/frontal/doc/Ebook_COUPLED_15.pdf)。

会議場までは、水上バスで移動しましたが、途中でサン・マルコ広場周辺も撮影出来ました。大勢の観光客で、大変にぎやかでした。



写真2: ベニス島のサン・マルコ広場周辺

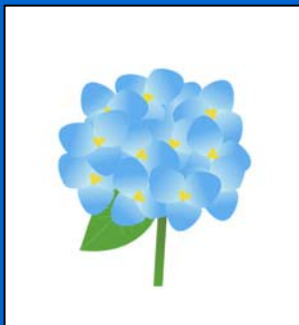
地震データベース

2011年3月11日東北地方
太平洋沖地震

地震情報

宇津カタログ(世界の地震被害)

地震カタログ(世界の大地震の震源メカニズム、余震分布等)



論文募集

IISEE Bulletin は、現在地震学、地震工学、津波に関する論文を募集しております。開発途上国に関するものを対象としていますが、それに限らず募集しています。

送って頂いた未発表の論文は、編集委員会と専門家による査読を行います。投稿料は無料です。

是非チャレンジして下さい。

中南米地震工学研修 関西方面研修旅行レポート

(1) Mr. Francisco Javier VALLES URQUILLA (エルサルバドル)

中南米地震工学コースに参加し、この分野の各専門家による様々な経験を聴くことができ、大いに満足しています。特に神戸など様々な場所を訪問できたことは印象的でした。



自治体は災害を元に計画を立てており、防災計画や建設時の査察に関する規制を重要視しています。一般住民に対する啓蒙は中南米の多くの国々にとって手本となることであり、我々の間違いから教訓を学び犠牲者が出ないようにするということが大切な考え方です。

京都では、古い寺院などの重要な場所ではその建築様式をほとんど変えることなく耐震化を図っていますが、これはあらゆる社会が努力し約束すべきことであると同時にエンジニアリングの成果に負う部分は大きいと思います。

(2) Ms. Yolanda Elizabeth VAQUERANO CATIVO (エルサルバドル)

6月4日の神戸への訪問で、地方自治当局の都市部の建設事案に関する意識の高さにとても驚きました。



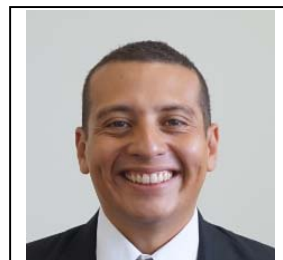
彼らは建物がどのような災害の可能性に対しても安全であるように、法規制や専門家を重要視しています。地方自治当局の専門家は定期的な査察を実施し、建物が規定に沿っていること、および高い耐震性を保持していることを確認する責任を負います。

しかし、私は、彼らが国民に対して積極的に参加する機会を与えることこそが、非常に重要であると考えます。なぜなら、国民は(地震などの)非常時に備えての教育キャンペーンに参加し、また、建造物が市の安全規定に沿っていないとして非難する自由を有するべきだからです。

(3) Mr. Mauricio Rene CHORRO (エルサルバドル)

今年6月3日から8日にかけて、中南米地震工学研修の研修生は、名古屋、神戸、京都そして東京を訪れる機会を得ました。

これらのうち、個人的には、訪問したなかで一番印象的だったのは、名古屋大学の減災館です。そこでは研究者が地震と災害について共同で研究に取り組んでおり、耐震建設技術を実験し発展させるための場所です。日常的に、減災館では、これらの重要なトピックについて学びたいと願うすべての人々に対して、最先端の研究と教育を提供しています。



二番目は、兵庫耐震工学研究センター・E-ディフェンスが挙げられます。ここは、15m×20mの三次元震動台を有しており、この震動台は実際の地震と同様の複雑な三次元震動を作り出すこと

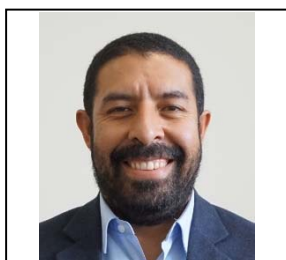
ができます。

これらの場所で、地域協力防災、地震地動や津波による災害予測、そして地方における防災及び減災にかかる対策促進のためのシステム開発の研究をどのように構成すればよいのか、より学ぶことができました。

(4) Mr. Nilton Reynaldo FERREL ZEBALLOS (ペルー)

名古屋や神戸、京都、東京への5日間の研修旅行では、様々なことを学ぶことが出来ました。

名古屋大学 減災館の福和先生のような一人の人物が粘り強くしっかりと辛抱強く活動されていること、また神戸の人と防災未来センターでは災害での経験やそこからの学びを広報活動していることを知りました。



また、兵庫耐震工学研究センター・E-ディフェンスでは技術を使って不可能へ挑んでいること、仁和寺や金閣では過去への敬意と現在への貢献がなされていることを知ることが出来ました。

そして、鹿島建設では設計、工学、建設の各専門家の素晴らしい仕事ぶりを見学することが出来ました。

これらを通して、教育や強い意志、物事をきちんとやるという姿勢があるからこそ、日本という国が自然や人の営みが引き起こす様々な現象に対して国として(弾力・復元力)対抗力を持つのだということが分かりました。

このような場所を訪れるまたとない素晴らしい機会を作っていただいた JICA、BRI/IISEE に対して心より感謝いたします。

コロキウム、ジェネラルミーティング & 親善パーティー

国際地震工学センター 管理室 室長 山下 崇

第3回コロキウム(研修生による発表セミナー)が、5月28日(木)、5月29日(金)の二日間にかけて IISEE にて行われました。初日は、地震工学コースの研修生により、彼らの個人研修レポートの概要について発表が行われました、翌日は地震学コース及び津波防災コースの研修生により同様に発表が行われました。

5月29日(金)のコロキウム終了後、ジェネラルミーティング(GM)を実施しました。GM では、研修生は講義や日頃の生活などについての感想や気が付いたことについて意見を述べました。

GM に続いて、親善パーティーが開催されました。このパーティーは、研修生が苦勞する個人研修を乗り切ることができるようにと、IISEE が企画しました。パーティーは山下の司会により始まり横井センター長から励ましのスピーチがありました。今回は約半数の研修生が IISEE の外で勉強します。彼らは仙台、東京、千葉、豊橋、京都で指導者の下で勉強をします。おいしい料理と和やかな雰囲気の中、最後は日本スタイルの一本締めで締めてパーティーは終了しました。

6月1日からは、研修生は修士論文を書くために個人研修に取り組んでいます。



楽しむのは今です。

連絡先

IISEE ニュースレターは、IISEE と卒業生の架け橋を目指しています。

ニュースレターへの報告や記事をお待ちしております。皆様の自国での活躍をお知らせ下さい。

また、皆様の同僚やお友達もこのメーリングリストに登録するようにお誘い下さい。

iiseenews@kenken.go.jp
http://iisee.kenken.go.jp

バックナンバーは
下記をご覧下さい。

http://iisee.kenken.go.jp/nldb/